

SUPERBIKE EXPRESS--

EXtra, EXpert and EXtreme

2018 All Japan Road Racing Championship Round 6
TWIN RING MOTEGI 2&4 RACE

2018
SUPERBIKE
EXPRESS
06



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACING CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE
OFFICIAL REPORT

レースウィークをリードする野左根航汰が 今季初ポールポジションから今季初優勝を狙う! 手負いの中須賀、HRCを背負う高橋巧が意地を見せるか!?

ツインリンクもてぎ2&4レースから2018年シーズン後半戦に突入した全日本ロードレース選手権。レースウィーク初日となった8月17日(金)から、それまでの猛暑日がうそのように気温、湿度共に下がり、さわやかな気候となった。

青空の広がったツインリンクもてぎでセッションをリードしたのは、YAMAHA FACTORY RACING TEAMの野左根航汰だった。初日の1本目、2本目、そして公式予選でもQ1、Q2と全セッションでトップタイムをマーク。今シーズン初ポールポジションを獲得した。野左根は、昨年もツインリンクもてぎ2&4レースでポールポジションを獲得。これがJSB1000クラスで初ポールポジションだった。さらにツインリンクもてぎで開催された2レースで共に優勝を果たしており結果的な相性は、いい方だ。しかし、昨年優勝した2レースは、両レースとも中須賀克行がトップを走りながら転倒しており“タナボタ”という感は否めなかった。優勝は優勝だが、野左根本人も、今年こそ中須賀と堂々と勝負し勝つことが目標だった。

しかし、今シーズン前半戦では、開幕戦のレース1での転倒から始まり、表彰台には上がるものの、トップ争いから引き離されてのレースが続いていた。鈴鹿8耐は、ヤマハのスーパーサブ的存在として控えにまわり番はなかったが、MotoGP™マシンの開発テストは続いていた。特に、中須賀が鈴鹿8耐で負

傷してからは、その仕事を一手に担っていた。今回のツインリンクもてぎ2&4レースは、事前テストがなかったこともあり、久しぶりに自分のマシンに乗った感じだったと言う。初日、2日目と流れは完璧に近いだけにレースも、その勢いで引張って行きたいところだろう。

鈴鹿8耐の土曜日に転倒し右肩を痛め、決勝をキャンセルした中須賀。あれから3週間が経ち、かなり回復してきているが、まだ、その影響はかなりあると言う。「ストップ・アンド・ゴーのセクションは、厳しいと思っていましたが思ったよりもタイムも出せました。ただ、23周と長いので、どこまで走れるかは、分からない部分もあります。大事なところはチャンピオンシップなので、ノーポイントだけは避けたいですね。肩は、以前にも痛めたことがあるので、そのときの経験を生かして、うまく走りたいですね。実際、無理が効かない部分がありますが、ケガの功名じゃないですけど、速く走ることができている部分もあるので、今後プラスになると思います」とポジティブに考えている。

そんなヤマハ勢に一矢を報いたいHRCの高橋巧は、初日に転倒があったものの、徐々にマシンはよくなってきていると言う。コーナーの立ち上がりからの加速は、目を見張るものがあるだけに、今シーズン初優勝を挙げたいところだ。

ヨシムラの津田拓也も今シーズンでは、一番いい仕上がりにと言えそうだ。「予選では、1分48秒台に入れたかったのですが他のライダーより伸び幅がなかったですね。アベレージは悪くないので、今回こそトップ争いに加わって、最後に勝負できるポジションにいたいですね」と表情も明るかった。

カワサキのエース渡辺一馬は、ここまで今ひとつ攻められない状態だが、決勝に向けて課題は明確になってきていると言う。「8耐明けだからか、4輪の影響なのかフィーリングが今ひとつでしたが、チームと話し合いセットを変更する予定です。決勝朝のウォームアップ走行で確認していい方向に行けば1分49秒台で走ることができるはずですよ」とセットが決まればトップ争いに加わって来そうだ。

フロントロウの3台に加え、津田と渡辺一馬がトップグループを形成しそうだ。手負いの中須賀が、どこまで踏ん張ることができるかによって、レース展開が変わってくるだろう。キット車両ながら予選5番手に食い込んできた秋吉耕佑、調子を上げてきている渡辺一樹のポジショニングにも注目したいところ。

決勝レースは、23周と長丁場で争われるだけにタイヤマネジメントが重要なファクターとなるはずだ。野左根がレースをリードするのか!? 他のライダーがかき回すのか!? 果たして、どんな結末が待っているのだろうか…。



QUALIFYING PRACTICE RESULT & INTERVIEW



ポールポジション: 1'48.564
#5 野左根 航汰 YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5



『Q1からQ2のインターバルが非常に短かく、休み間がなかったため、Q2で、ひと息ついてからアタックしたのがよかったです。想定タイムはありませんでしたが、ポールポジションを獲得したいという気持ちで挑み、いい感じに走ることができました。1周タイムアタックが決まり、1分48秒5が出たので、燃え尽きた感じがありました。金曜日に比べて土曜日は、風がなかったため、走りやすかったですね。中須賀選手も高橋巧選手も速いので勝つことは容易ではないと思いますが、全力で挑んでいきたいですね』

予選2番手: 1'48.724
#21 中須賀 克行 YAMAHA FACTORY RACING TEAM



『非常に厳しい予選でした。8耐の転倒で身体は万全ではないのですが、状態は日を追う毎によくなっています。予選では、フロントロウに並ぶことができれば御の字だと思っていたので、想定していたタイムより出てますし、2番手は上出来だと思います。あとは、アベレージを、どれくらい上げられるかが課題なので、決勝日朝のウォームアップ走行を使って、もっと楽に乗れるようなセッティングにして決勝に臨みたいですね。レースは23周と長いので、不安はありますが、最後まであがいて、皆さんにいいレースを見せられるように全力を尽くします』

予選3番手: 1'49.247
#1 高橋 巧 Team HRC



『金曜日は転倒もあり、流れがよくないまま初日を終えてしまいました。4輪の影響なのか、コンディションはセッション毎に違うのですが、野左根選手が言ったように、公式予選では風が弱かったので、1分48秒台は出してくると思っていましたし、ボクも同じくらいは出したかったですね。公式予選では、その悪い流れを打ち切り、いい方向に切り換えることができたと思うので、決勝日朝のウォームアップ走行を使って勝負できるように仕上げて行きたいですね』

公式予選結果

●予選: 天候 / 晴 路面 / ドライ 出走32台
●決勝レース スタート / 12:15 (23周)

Pos.No.	Rider	Team	Q2	Q1
1	野左根 航汰	YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5	1'48.564	1'49.082
2	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	1'48.724	1'49.154
3	高橋 巧	Team HRC	1'48.911	1'49.247
4	津田 拓也	ヨシムラスズキMOTUL	1'49.215	1'49.684
5	090 秋吉 耕佑	au・テルルMotoUP RT	1'49.736	1'50.456
6	11 渡辺 一馬	Kawasaki Team GREEN	1'49.793	1'50.175
7	26 渡辺 一樹	ヨシムラスズキMOTUL	1'50.164	1'50.151
8	71 加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	1'50.386	1'50.733
9	72 高橋 裕紀	KYB MORIWAKI MOTUL RACING	1'50.610	1'50.591
10	51 Zaqwan Zaidi	Honda Asia-Dream	1'50.934	1'50.688
以上 Q2にて決定:				
11	23 清成 龍一	KYB MORIWAKI MOTUL RACING	1'50.804	
12	20 日浦 大治朗	Honda Suzuka Racing Team	1'51.057	
13	25 生形 秀之	エスバルスドリームレーシング・IAI	1'51.381	
14	35 近藤 湧也	JOYNET GBSレーシングYAMAHA	1'51.525	
15	31 津田 一磨	Team Baby Face	1'51.537	
16	8 山口 辰也	Team SuP Dream Honda	1'51.598	
17	14 中富 伸一	HITMAN RCKOSHIEEN YAMAHA	1'52.132	
18	634 名越 吾平	MuSASHI RT HARC-PRO.Honda	1'52.379	
19	46 星野 知也	TONE RT SYNCEDGE4413	1'52.383	
20	15 松崎 克哉	Kawasaki Team GREEN	1'52.758	
21	70 清末 尚樹	チーム阪神ライディングスクール	1'53.605	
22	34 岡村 光矩	KRP三陽工業&RS-ITOH	1'53.691	
23	54 BRIAN KIM	TWO WHEEL KOREA SUPPLY	1'54.163	
24	22 児玉 勇太	Team Kodama	1'54.371	
25	37 須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	1'54.522	
26	44 樋口 耕太	H.L.O RACING	1'54.803	
27	77 吉廣 光	CLUBNEXT&MOTOBUM	1'55.161	
28	43 中津原 尚宏	ATJ Racing	1'55.227	
29	60 木村 思音	Honda 狭山レーシングチーム	1'55.827	
30	708 山添 康孝	A-Garage・PROJECT.FATE#708	1'56.701	
以上 予選通過車両:				
31	76 佐藤 慎一郎	佐藤家レーシング&MGR	1'57.989	
7	濱原 颯道	Honda Dream RT 桜井ホンダ	計測できず	
73	大貫 貴彦	ロケットケロタン+ネオラグーナ	出走せず	

以上 Q1にて決定:

参加台数 33 台 / 出走台数 32 台

予選通過基準タイム (108%) 1'57.893



タイトル争いのためには、この後半戦緒戦が正念場となる高橋巧

INFORMATION

RIDE & DRIVE 全日本ロードレース & 全日本モトクロスを無料放送

MJFが管轄するロードレース、モトクロスの各全日本選手権シリーズ全戦が、無料BS放送のBS12(番組名「RIDE&DRIVE」)で、モーターサイクルスポーツバラエティとして放送! 放映日時は毎月最終金曜の21:30~22:00になりました。

★詳しい放映スケジュール等はファンサイトで!

《放映スケジュール》

12月の総集編まで毎月最終金曜の21:30~22:00に放送!!



インターネットライブ中継&動画配信も充実!!

MJF Live CHANNEL

全日本ロードレース選手権は全戦・全クラスの予選・決勝をライブ配信! 今年からカメラ位置・アングルを充実、より迫力ある映像をお届けします。※通信環境によりディレイ配信となる場合もあります



YouTube「MJF SUPERBIKE オフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>

